

## 明治天皇の巡幸

郷土史家 西羽 晃

明治 11（1878）年に明治天皇が三重県地方を巡幸の予定が発表され、9月に下見が行われた。下見の一行は鈴鹿峠から三重県に入り、伊勢神宮を参拝して、23日には四日市で泊まり、24日には桑名に着いた。桑名では岩間久八（元の大塚本陣・船津屋）を宿泊予定とし、さらに前ヶ須への渡船を予定した。荷物などは桑名から熱田へ直接に船で運ぶことにした。しかし、桑名で腸チフスが発生したため、取り止めとなった。

明治 13 年 7 月 2 日、明治天皇は午前 7 時熱田発、熱田神宮参拝。中島新田・久田留兵衛方にて小休み。福田新田・鬼頭義忠方にて昼食。西舘村・志水太十郎方に午後 0 時 4 分に到着され、同 50 分に出発。午後 2 時前ヶ須村・佐藤七三郎方に到着され、同 50 分同邸の庭口から乗船。午後 5 時 15 分に桑名に到着された。



西舘御小休所（『明治天皇御聖蹟』 1938 年  
国立国会図書館デジタルコレクションより）



前ヶ須御小休所

このうち西舘村（現弥富市西舘）の志水家には明治天皇が休まれた建物が、ほぼ原型の

まま残っている。この建物は明治3年の建築で、きわめて簡素な建物である。前ヶ須村（現弥富市前ヶ須）の佐藤家の建物は名古屋城の御深井丸にあつて、竹長押茶屋と言われた建物であり、明治5年に佐藤家が払い下げを受けて移築したものである。現存しており、弥富市指定文化財となっているが、個人所有であり、一般には公開されていない。

桑名では岩間久八方で泊まる予定だったが、旧大塚本陣の建物はすでに移築されていたので、天皇は桑名の川口港で下船されてから、馬車で川口町・三崎通・相生町を経て、本統寺に到着して宿泊された。火急の場合の避難先として太一丸の山田治三郎方（後の諸戸邸）が指定された。食事用の水は上野の「ご膳水」が使われた。宿舎では桑名の古物・古書画が展示され、士族高木是三郎、士族奥村勝司の長女タマ、士族泉源左衛門の3女スへの3人が、萬古焼の実演を行った。



明治天皇が泊まれた本統寺の広間

3日は午前7時20分に本統寺を出発され、小向村の伊藤伝八郎方、東富田村の広瀬五郎兵衛（酒五）方で小休みして、焼蛤を食べられた。午前11時30分、四日市の黒川彦兵衛方（旧本陣）に到着して、昼食された。